

高校サッカー部員が求める練習方法・指導形態に関する研究 —滋賀県立K高校を対象として—

増本勇介（生涯スポーツ学科 地域スポーツコース）
指導教員 新井 博

キーワード：高校サッカー 選手が求めるもの 自立

1. 緒言

私自身は高校のサッカー部のコーチとして活動している。指導の際に、選手から様々な要求をされるが、答える事が出来ていないのが現状である。私は選手の求めている内容を知ること、より良い指導ができると思う。また私は指導の際に、「自立する」という部分を大事にしている。サッカーは、プレーをすべて自分で判断しなければならないからである。選手が自ら考え、行動や発言をすることができる指導こそが、選手が自立する事ができると考える。そこで本研究では、私が知りたい選手の求めている練習方法や指導形態について調査する。また私が指導で大事にしている「自立する」について選手がどう捉えているか調査する。

調査結果を参考に、今後の高校生年代の指導スタイルを見出すことが目的である。

2. 研究方法

現在指導を行っている滋賀県立K高校サッカー部員（41人）を対象として、私が知りたい選手が求めている練習方法や指導形態についてアンケート調査を行う。

3. 結果と考察

1)選手の求めている練習方法や指導形態については、調査結果を見ると、選手の考えを様々だが、しっかりと自分の意見を持っている。また選手が自立することについてどう捉えているかは、以下の通りである。

回答1の理由には、「自分で考える力を身につけたい」「人に頼らず、自立したい」な

どの意見があり、選手は自立することを重要と考えている。広島観音高校サッカー部は、選手を自立させるためにすべて選手に考えさせ、決断させる指導を行っている。

選手に考えさせる事は、選手の自立につながるかと推察される。

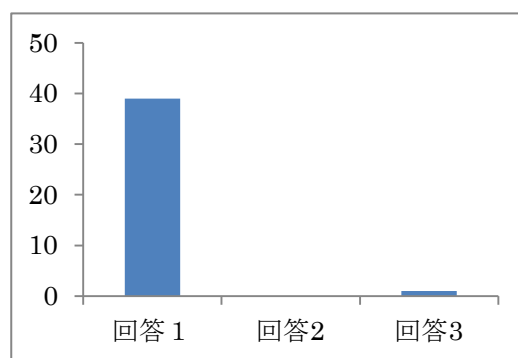


図1. 問2に対するアンケート結果
問：どのような指導を受けたいか。

4. まとめ

今回の研究では、選手の求めている練習方法や指導形態を知ることができた。また選手の考えと私が指導で大事としている「自立する」というポイントが一致していることが確認できた。また今回の研究で見出すことができた指導スタイルは、選手の意見を取り入れ、共に考えていく指導スタイルである。指導者は選手を尊重し、選手は自ら考える習慣を身に付け、自立することを目的とする指導である。

5. 参考文献

伊藤和之（2009）広島観音高校サッカー部は、なぜ強くなったのか. ザメディアジョンMJ新書.